

医学コースでは、グループワークや講義が行われました。大学の先生や様々な企業の方からお話を聴くことができました。高校2年次には、3、4人で班を作り、医療を題材とした短編SF小説を作りました。班で発表し合い、数班が選ばれ、他校の医学コースの方と発表し合いました。授業は学年が上がると、数学と英語で習熟度別の授業になり、多くの生徒が上位のクラスを目指して勉強するようになります。通常時の課外もレベル別になっていることが多く、自分に合わせた課外を選択することで、苦手教科を克服したり、得意教科を伸ばすことができます。消化できる範囲で課外を受けることで、無理に塾に通わなくても十分に学力を伸ばすことができます。atama+を上手に活用することも1つの手だと思います。実際に、私はatama+を使って数学の苦手だった単元を克服し、得意分野にすることができました。進学指導はとても熱心です。私はとてもお世話になりました。推薦を受けるかどうかや、推薦のメリット・デメリットについて丁寧に説明してもらい、私の決断を尊重してくれました。共通テスト後に受験校を決める際も、色々なデータを見ながら、問題との相性なども参考に受験校選びを手伝って頂きました。私が医学部受験を乗り越えられたのも、合格を頂けたのも進路指導の先生のお陰です。

私は6年間部活動に打ち込みました。中学時代は部活動を言い訳にして、毎日勉強することを怠り、テスト前に追い込んで勉強する日々でした。当たり前ですが、授業中は絶対に寝ないようにしていました。医学部に入りたいという意志は明確だったので、高校生になってからは必ず毎日勉強するようになりました。マネージャーとして活動していたこともあり、心身ともに勉強する余裕があったので野球部の割には勉強していたのではないかと思います。研修旅行では台湾、主に台北に行きました。想像以上に日本語が通じ、アニメの偉大さを実感しました。中学では体育祭、高校では文化祭が行われます。どちらも必ずといっていいほど意見のぶつかり合いがありますが、最後はみんなが笑顔で終わることができます。いつもとは違った同級生の姿を見ることができ、今でも記憶に残る思い出です。クラスマッチでは全員が色々な種目に出場します。運動が苦手でも、文化系種目があるので、心配無用です。

茨中・茨高の良いところは先生方が熱心なところだと思います。進路指導だけでなく、普段の授業もとても熱心です。ほとんどの先生が中学・高校の両方の授業を担当しているので、中学生のとき、先生方から高校のお話や高校の勉強のお話を聞くことが多く、とても楽しかったことを覚えています。また、様々な経歴を持っている先生もたくさんいます。実際、私が6年間数学を教わった先生は教科書制作に携わっている先生で、制作の裏話を聞かせて頂きました。そういった先生は近寄りやすいイメージがありますが、実際に話してみると、生徒思いのフレンドリーな先生です。入学した際には、ぜひ色々な先生に話しかけてみてください。

進学後すぐの抱負としては、自動車免許の取得です。私は将来、茨城に戻って地域医療に携わりたいと考えているので、車は必須だと思います。将来のことも考えて、時間に余裕のある大学1年生のうちに免許を取りたいです。大学では、地域医療に関する取り組みが盛んに行われているので、大学1、2年次から参加し、地域医療や予防医療に対する知見を深めていきたいです。茨城の10年後、20年後を支え、1人でも多くの患者さんやそのご家族の力になれるよう、努力を重ねていきたいと思っています。